

提言第16号 頸部手術に起因した気道閉塞に係る死亡事例の分析

事例2

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代、外傷性頸椎椎間板ヘルニア、横突起（C6）骨折の患者。
- ・ 頸椎前方固定術（C5/6）を施行。手術時間は約3 時間半。術中出血量は約60 mℓ、手術終了後に抜管。
- ・ 病棟帰室約1 時間半後、痰のからみ、嘔声を認めるが経皮的動脈血酸素飽和度（以下 SpO₂） 99%。希望により側臥位へ体位変換、吸引し唾液が少量引けた直後、SpO₂が測定不能となり、顔面蒼白、眼球上転し、まもなく呼吸停止した。経鼻エアウェイを挿入し、気管挿管を試みたが困難であった。開創のためガーゼを除去したところ、頸部全体に腫脹を認めた。開創し血腫除去後に気管 挿管を実施したが、約1 年後死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞に伴う低酸素脳症。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。